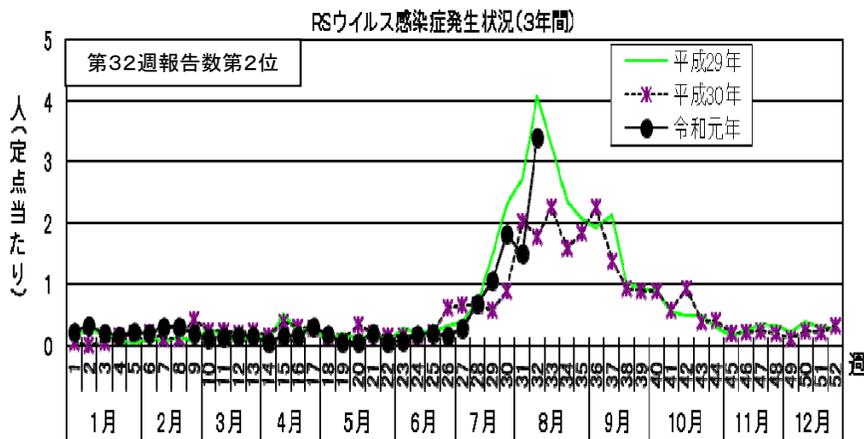
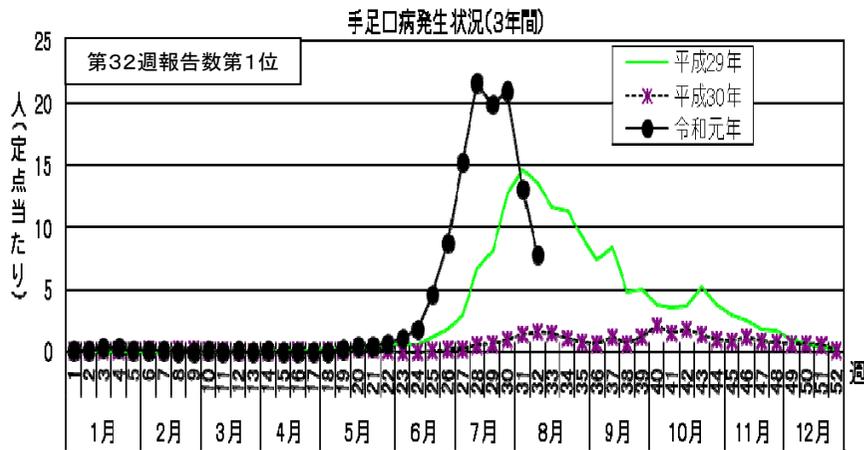
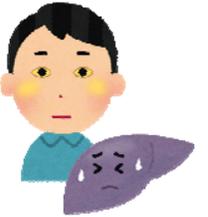


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年8月5日（月）～令和元年8月11日（日）〔令和元年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)RSウイルス感染症 3)感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は7.76人と前週（13.06人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.42人と前週（1.51人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.18人と前週（3.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



E型肝炎をご存知ですか？

川崎市では、6月中旬からE型肝炎の患者報告数が増加し、今年は第32週（8月5日～8月11日）までの患者報告数が14人と、過去10年間で最多となりました。鹿肉をはじめ、加熱不十分な肉やレバーなどが感染原因と推定された患者の報告も複数みられました。E型肝炎は、比較的予後が良好な疾患ですが、妊婦が感染すると重症化しやすいといわれています。レバーなどの内臓肉を含め、肉は十分に加熱し、手洗いを徹底するなど予防対策を心がけましょう。

E型肝炎とは？

【感染原因・経路】

E型肝炎ウイルス

- ・生や加熱不十分な動物の肉や内臓
- ・汚染された飲料水等



【潜伏期間】

15～50日（平均6週間）

【主な症状】

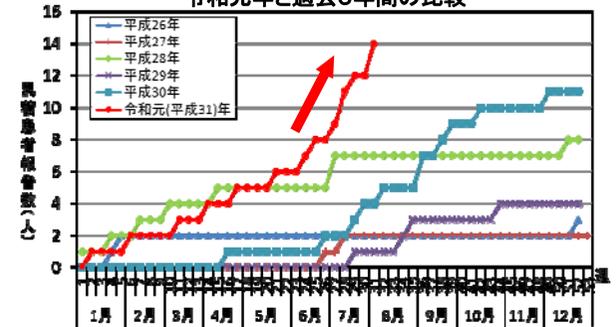
発熱、悪心・腹痛等の消化器症状、
全身倦怠感、食欲不振、黄疸

【治療】

特異的な治療法はなく、対症療法が中心

妊婦は劇症肝炎になりやすく、致死率が20%にも達することがあるといわれています。

川崎市におけるE型肝炎累積報告数の推移
—令和元年と過去5年間の比較—



予防対策

ブタやシカ、イノシシなどの肉や内臓肉の摂取により感染した例が多くみられるため、食肉の十分な加熱、生肉に触れた食器や箸などを使用しないなどの予防が重要です。

